

議事録 2020. 10. 18 小野学区連絡協議会

小野学区連絡協議会 2020. 10. 18(日)10:00～12:00 小野市民センター大会議室	
出席：自主消防犯推進協議会会長(伊藤) 社会福祉協議会会長(高野) 民生委員民生児童委員協議会会長(渡邊) 人権・生涯学習推進協議会会長(木下) 青少年育成学区民会議会長(細田) 体育協会会長(山田) 小野学区女性会会長(濱奥) (朝1)柴田 (朝2)内田、徳岡 (湖1)上田 (湖2)永戸、小山 (水1)佐々木、坂本 (水2)戸嶋、光谷 (事務局)庭山、小倉「記録」 進行：岩田小野学区自治連合会長 配付：①小野学区さらなる新しいまちづくり②山中比叡平自治連合会まち協設立状況調査③小野学区自治連合会「2019年活動報告」	
1. 議事	1)岩田会長挨拶 小野学区自治連として「住みつづけたくなるまちづくりをしよう」をス □ ーガンに活動展開してきているが、直面する課題対応していくためには、 新しい組織化が必要な段階にきている。これらについて、活発な議論を お願いしたい。 2)自己紹介 各種団体、自治連役員など出席者の自己紹介がなされた。 3)報告1：小野学区「さらなる新しいまちづくりへ」自治連事務局「内田」 これまでの活動実績や課題、今後の展開などを含めて、以下の3つの骨 子についての報告・提案がなされた。 ①2019. 11月大津市議会で「大津市コミュニティセンター条例」が可決 決 定され、住民と行政の協働化の推進が求められている。かつて住民と行 政 の争点であった市民センターのあり方について「見直す」との公約を掲 げ た佐藤市政へと変化し、われわれ住民としても、支所運営や防災対応、 公 民会運営等に前向きに検討していきたい。 ②その初手として、大津市から公募されている「コミュニティセンター 運営業務委託」自主運営試行に手を挙げたい。 ③その対応にあたっては、運営主体を担う組織体が必要である。現行の 自治連をベースとしながら、本日お集まりの学区内の諸団体が結集した 連絡協議会(名称は今後検討)的な組織化を検討していきたい。来年1月 に2回目の会合を開催し、4月からの自主運営試行に向けて準備してい きたい。 4)報告2：「山中比叡平自治連合会まち協設立状況調査」自治連事務局「庭 山」 ①訪問目的 大津市で最初にまち協に取り組んだ先行事例を訪問し、立ち上げ経過や 課題を調査し、小野学区まち協の構想設定と設立準備の参考とする。 ②山中比叡平学区とは 世帯数1,266 人口2,731と小野学区の約半分の規模。高齢化率37%で、 小野学区高齢化率48%に比較し若い層の呼び込みが成功している。まち 協財源として@2,050と非常に高額なのが印象的であった。

	③まち協の現状 ・ 設立は2020, 2月。設立までの準備に2年を要した。 ・ まち協は、自治連合会が移行したもので、屋上屋を重ねる形とはなっていない。まち協の会長・事務局長はいずれも自治連と兼任。 ・ まち協運営は運営委員会（単位自治会の会長、専門部会の会長、まち協役員、コミセン代表等の25名）が担当。 ・ 専門部会が6つ置かれている。「防災・防犯部会、地域振興部会、環境部会、公共交通対策部会、健康・社会福祉部会、教育・生涯学習部会」これら専門部会に参画している関係団体の中で、会則や予算、総会などの機能を有している団体は、独立組織としての活動を継続している。 ・ まち協会員には非自治会員も含まれる。（加入率75%）非自治会員に対しては公共の配付物や防災関係配布物を配るだけ、まち協の活動に組み込むまでには至っていない。 ・ まち協役員と単位自治会会長との会議は毎月。専門部会長加えた会議は隔月開催。 ④コミセン化 ・ 2020. 4月設立。運営業務委託のパターン2.。大津市からの委託料550万 ・ 公募で常勤臨時職員男性1名、嘱託職員女性2名採用し運営。 ・ 数年内にNP0化の構想。
2. 意見交換	1) 質問 内田報告で説明のあった4コマ目、「公民館及びコミュニティセンター運営のパターンと人員体制」で、自主運営試行に入りたいとの意向はわかったが、その後の展開の見通しは？ 期限5年後には、どの道筋を目指しているのか？（湖2 小山） ↓ パターン2辺りを想定しているが、今後の議論によるし、なんとも云えないとしか答えられない。（内田） 2) 社会福祉協議会会長（高野） 社協としては、非自治会員もカバーしており、非会員の扱いが課題。今回のまち協構想への参画は特に問題はなくスムーズではと考えており、協力していきたい。 3) 人権・生涯学習推進協議会会長（木下） まち協構想に異論はない。内田報告の6コマ記載の「女性の人権」→「人権・生涯学習」に修正願いたい。 4) 青少年育成学区民会議会長（細田） まち協に参加し、協力したい。 5) 体育協会会長（山田） 体育を通じたコミュニケーション形成で寄与したい。まち協賛成。若い人の会員加入を考えていきたい。 6) 小野学区女性会会長（濱奥） 女性会としては北部4学区広域の活動となっているが小野学区として協力していきたい。 7) 自主防犯推進協議会会長（伊藤） まち協構想に異論はない。消防団の若い人の勧誘策として、会費の免除を 考えては。 8) 自主防災会統括部長（庭山） 平時は他学区と比べても遜色のない活動をしている。又、情報集約や避

	難所運営方法はマニュアル化され明確になっている。 大きな課題は災害時に活動できる人員が大幅に不足している事で、「まち協」設立を機に災害発生時の関係団体との協業体制構築に期待している。
3. 結論	自治連合会を発展的に改組した新組織「まちづくり協議会」の組織化に向けて取り組む。とりあえずはR3年度、公民館自主運営試行事業に応募する。の2点に対して、拍手で全会の賛同が得られた。